

友松会だより

平成 27 年度 友松会総会 報告号
発行責任者 会長 芦川 弘
平成 27 年 7 月 1 日

平成 27 年度友松会総会

平成 27 年 6 月 20 日 (土)
会場 川崎 ホテル K S P

芦川会長挨拶(要旨)



本年度総会が川崎市で開催でき、誠に喜ばしいことです。

本日は、横浜国立大学学長長谷部勇一様をはじめ、

多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、感謝申し上げます。さて、友松会は、本年度で 127 年となります。その間、卒業生のほとんどは教育界で活躍してまいりましたが、平成になってから学部改編により教育関係以外に進む卒業生が多くなりました。さらに、今年度から学部新生が友松会に入会しました。本会の基盤強化、充実・発展にとって素晴らしいことです。こうした状況を理解し、長い間に培われた本会の良さを大切にしながら、学部卒業生を温かく迎えて、望ましい活動を展開していかなければならないと思います。

昨年度に引き続き、「友松会の基盤強化の具体化と大学とのさらなる連携を図ろう」をスローガンとして、副題「行動する友松会」を掲げました。学生会員の誕生に伴うさまざまな見直しが必要となり、「友松会の行動力」が問われる年になります。

そのための具体化として、「支部活動の活性化を図る」、「会費納入会員の増強に取り組む」、「大学との連携を強化する」ことが必要です。学生会員に対し、学部支援、講座・就職等の教育支援、イベント補助等の事業を考えたいと思います。YNU 校友会主催となるホームカミングデーは、常盤祭と同時開催で、友松会は「豊かな教育を語る会」を開催しますので、多数の参加を期待しています。

最後に、会員皆様のご健康とご多幸を祈念し、本日ご出席の方々に感謝申し上げます。(*友松会ホームページで、会長挨拶の全文をご覧ください。)

友松会総会次第

- 開会の言葉
- 国歌斉唱
- 物故会員への黙祷
- 会長あいさつ
- 来賓祝辞
- 来賓紹介・祝電披露
- 会務報告
- 卒寿会員への記念品贈呈
- 松沢研究奨励賞贈呈
- 閉会の言葉

来賓祝辞



横浜国立大学学長 長谷部勇一様

友松会総会の開催おめでとうございます。友松会の皆様には多大なご協力をいただき感謝しております。卒業生の縦のつながりで伝統ある同窓会活動に加えて、横の

連携を強化し在学中から愛校心を育めるように校友会活動を活発にしたい。留学生が増え、海外の同窓会活動も活発になっているので、校友会活動が外にも開かれ発展することを願っています。地域に根ざしてきた学校教育だが、そのシステムを海外に発信し、また留学生を通して母国に戻っていききたい。異文化交流を組織的に担って努力された横浜、川崎の経験は、重要な推進源になりグローバルな課題の追及につながる。本学では、グローバルとローカルを重視したいと考えています。

本学で最も歴史ある友松会が、「行動する友松会」として、大学全体の価値、ブランドの向上につなげて、共に発展していくことを期待して挨拶いたします。

川崎市教育委員会教育長 渡邊直美様



友松会総会が、本市において盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。川崎市は、間もなく 150 万都市となりますが、皆様のお顔を拝見し、本市教育に大きな

力を発揮されている先生が多いことに感謝と敬意を表します。現在、教育委員会制度が転機を迎えていますが、普遍的な願いは子どもたちの健やかな成長であり、だれもが夢と希望を持ち、生き甲斐のある人生を送るための礎を築くのが教育です。本年度市内の教員となられた会員は、小学校 12 名、中学校 2 名、特別支援学校 3 名だが、もう少し多くの方々に川崎の教員として活躍してもらい

たいので、皆様から学生会員に勧めていただき、一人でも多くの優秀な教員を迎えたい。友松会のみならずの発展と皆様のご多幸を祈念し、挨拶とします。

卒寿を迎えられた会員へ

の記念品贈呈

川崎支部 伊藤 初代 様

松沢研究奨励賞贈呈



川崎市立東高津小学校
新田 瑞江 教諭
平塚市立神田小学校
中野 美紀 総括教諭

第Ⅱ部 講演会「父 まどみちおを語る」



講師 石田 京 氏

(講演内容の一部)

父のことにふれます。雨が降っていて駅まで歩くと20分かかる。父に「駅まで送っていくよ。」と言うと、「その

必要なし。」と言うのです。家族に対しても遠慮し、気遣いするのです。それは非常に淋しいです。ちょっとかっこいいところもあるが親子の関係でそういう配慮や気遣いは不要だと思います。

父は社会生活を営む技術を持ち合わせていませんでした。非常に生きるのが不器用でした。だから母に世話になったという関係にあったのだと思います。

父は、ユーモリストに非常に価値を見出していました。「やぎさんゆうびん」はエンドレスの詩です。手紙を面白く詩にしています。そういう笑いのある詩はいいなあと思いました。父の作品で一番好きなのはこれです。「毛虫は散髪が嫌い」これは面白い。傑作だと思いました。

父はイミテーション(模倣)が嫌いな人間です。私は、「毛虫は散髪が嫌い」から「むかでは水虫が嫌い」が浮かびました。妻は高い評価をしてくれました。これを父に言ったらどういう反応をするのかと思いました。しかし、父は全く無表情でした。

父は、心底真面目な人間でした。この人は自分の利益のために人生で嘘をついたことがあるのか

と本当に思いました。純度の高い人間で、そういう姿を見ると、私はちょっと距離を感じました。母がぞっくばらんで、父がそういう人間でしたので、我が家はバランスがとれていたと思います。

第Ⅲ部 懇親会

“18歳から92歳までが一堂に会して”

来賓祝辞



学部教授 富丘会 名教自然会 校友会
馬場 裕様 梅原一剛様 井上誠一様 北澤尚徳様
馬場教授「平成29年度に本学部は教員養成課程のみとなり、併せて教職員大学院を設置する。国立大学の人文系・教育系に対する政府の姿勢は厳しいものがあり、今後一層友松会の皆様からのご支援をいただきたい。」

乾杯 顧問 金子禎様



歓談の様子



学生会員について

本年度から学生会員入会。



川崎市在住の一年生を招待。
学校教育課程と人間文化課程から各一名招待

毛利光希君と青木健一郎君

新会員紹介・歓迎のことば



万歳三唱

閉会の言葉

